



Every Cloud Has...  
すべての雲は銀の...  
村山由佳  
BOOK 講談社



学校へ行かないことは、果たして悪いことでしょうか？ 今、世間では子供の不登校が問題になっています。学校へ行けない子供が増えているのはどうしてでしょうか。彼らを学校に復帰させるためには何をすべきでしょうか。これはそんなことを考えるきっかけになる小説です。

この小説の主人公は恋人を自分の兄に寝取られて、その傷を癒すために大学生生活を捨てて信州の地に逃げてきます。そこで出会ったのは、『信州の空のような明るさの奥に様々な傷を隠した人たち』でした。

行方不明になった夫を何年も待ち続けていたり、田舎に嫁ぎ周囲との人間関係に悩んでいたりと、自分の殻を抜け出せなかったりと色々な傷を持った人たちに囲まれながら、主人公は暮らし始めます。

その中で、いわゆる不登校に陥っている、また陥っていた人のことがひととき大きく触れられています。

作中に出てくる小学生の小林桜は、本

人も覚えていないようなふとしたきっかけから学校に行けなくなりました。朝起きたらおなかや頭が痛くなる、理由もないのに痛くなる。そして母親が学校に「休みます」と連絡したとたんにその痛みがずっと引く、といったことが続きます。周囲がその理由を問いただしてもただ泣くだけで何も答えません。本人にもなぜ体の調子が悪くなるのかがわからない、だけど調子が悪いのは事実。医者に診せると自律神経失調症だと言われます。

自律神経は普段から体を自動的に調節してくれている器官ですが、精神的にすぐストレスを感じたりすると、その調子も狂ってしまって、気持ちが勝手に頭痛や腹痛などの病気を作り出してしまうのです。

しかし周りの大人は、気を持ちようだ、なぜもっと自分に強くなれないのかと一様に子供を責めます。目の前のことから逃げるな立ち向かえ、と。こういった発言が、子供をよりいっそう苦しませて回

復を遅らせる原因になっていることも知らずに。

小説では、そのうちに周りの大人が「精神的なもの」と「気のせい」は違うということに気づき始めます。決して仮病ではなくて、本当に痛いのだと。周りの認識が変われば、本人もいつかは戻らなくてはいけないとわかっていますから、あとは時間の問題です。じっくり待てば、自分で自分に折り合いをつけて、ちゃんと戻っていくでしょう。

「傷ついてやさしくなった人を描いていきたい」

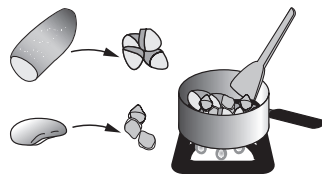
作者村山由佳さんはそう言います。主人公や周りの人たちが何かしらの傷を持っていて、その傷と向き合いながら少しずつ癒していくのです。いったん傷ついた人間は、同じ傷を持つ人に対して、また同じ傷を負ってゆく人に対してやさしくなれます。自分が苦しんだからこそ見えることがあり、わかることがあるのだから。(浅瀬)

かんたん  
Cooking

## 鶏肉とサツマイモの煮物

秋の味覚のひとつ、サツマイモ。食物繊維が豊富で、健康にも良い食べ物です。今回はそんなサツマイモを使った簡単煮物料理を紹介します。(蜜柑)

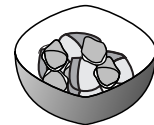
材料 (1人分)	
サツマイモ	50g
鶏肉	80g
水	100cc
炒め油	適量
醤油	大さじ1/2
砂糖	大さじ1/2



①サツマイモは乱切り、鶏肉はぶつ切りにして、油を入れた鍋で中火で炒める。



②鶏肉に軽く焦げ目が付いたら、水、醤油、砂糖を加えて弱火で煮る。



③水分が減って、サツマイモに味が染みたら出来上がり。

はみだし  
すてーじ

「風が吹けば桶屋が儲かる」のはどうしてでしたっけ？  
⇒ここに書くと本当にはみだしてしまいそうなのでやめておきます。

(経・4 ラッシー)  
(これが本当のはみだし；編)